

RIVER

2022年3月期 第2四半期

決算説明会

2021年12月6日

リバーエレクトック株式会社

(JASDAQ 証券コード6666)

① 2022年3月期2Q 決算概要

執行役員総務本部長 天野 伸幸

② 2022年3月期 業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

③ 今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

全社業績

- ・IoT通信モジュール向けが伸長。
- ・スマートフォン向けは需給のひっ迫状況は継続も、半導体の影響により減収。
- ・主力製品の販売数量の増加、販売価格の是正効果等により大幅増収増益。

売上高：**3,477**百万円（前年同期比36.3%増） 経常利益：**571**百万円（前年同期比157.5%増）

音叉型水晶振動子（kHz帯）

- ・生産能力の増強に伴う販売数量の増加により売上高アップ。

ATカット型水晶振動子（MHz帯）

- ・小型・高周波製品の受注好調、販売価格の是正効果大きく、収益性が大幅改善。

2022年3月期 第2四半期 連結業績（概要）

売上高：IoT通信モジュール向けが伸長

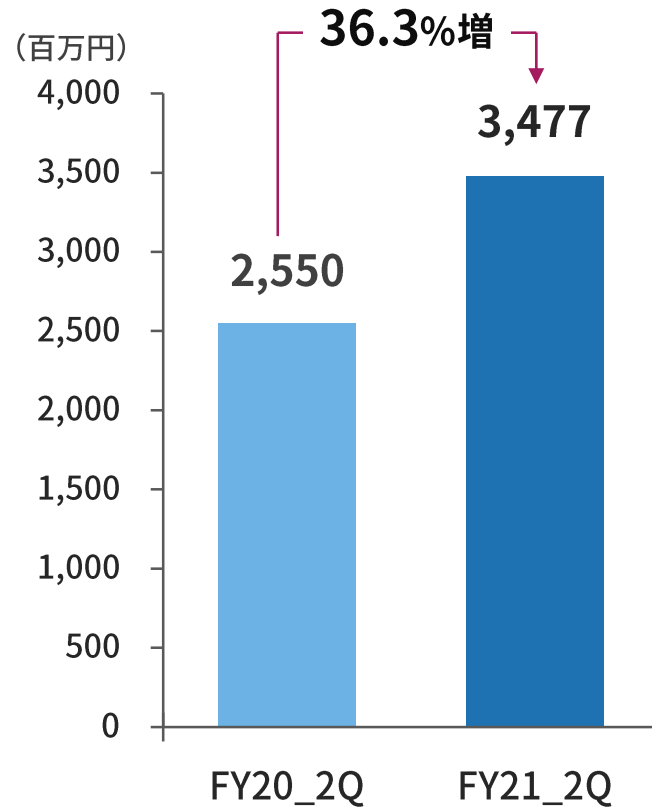
利益：主力製品の販売数量の増加、販売価格の是正効果等により大幅増収増益

(単位：百万円)	2021年3月期 第2Q	期初業績予想 (2021/05/13)	2022年3月期 第2Q	前年同期 増減額	前年同期 増減率
売上高	2,550	3,272	3,477	+926	36.3%
営業利益	237	407	602	+365	153.8%
営業利益率	9.3%	12.4%	17.3%	8.0pt	—
経常利益	221	369	571	+349	157.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	224	340	510	+285	127.1%
1株当たり四半期純利益	30.51円	44.18円	61.20円	30.69円	
為替 (USDollar)	107.74円	103.00円	110.58円	2.84円安	

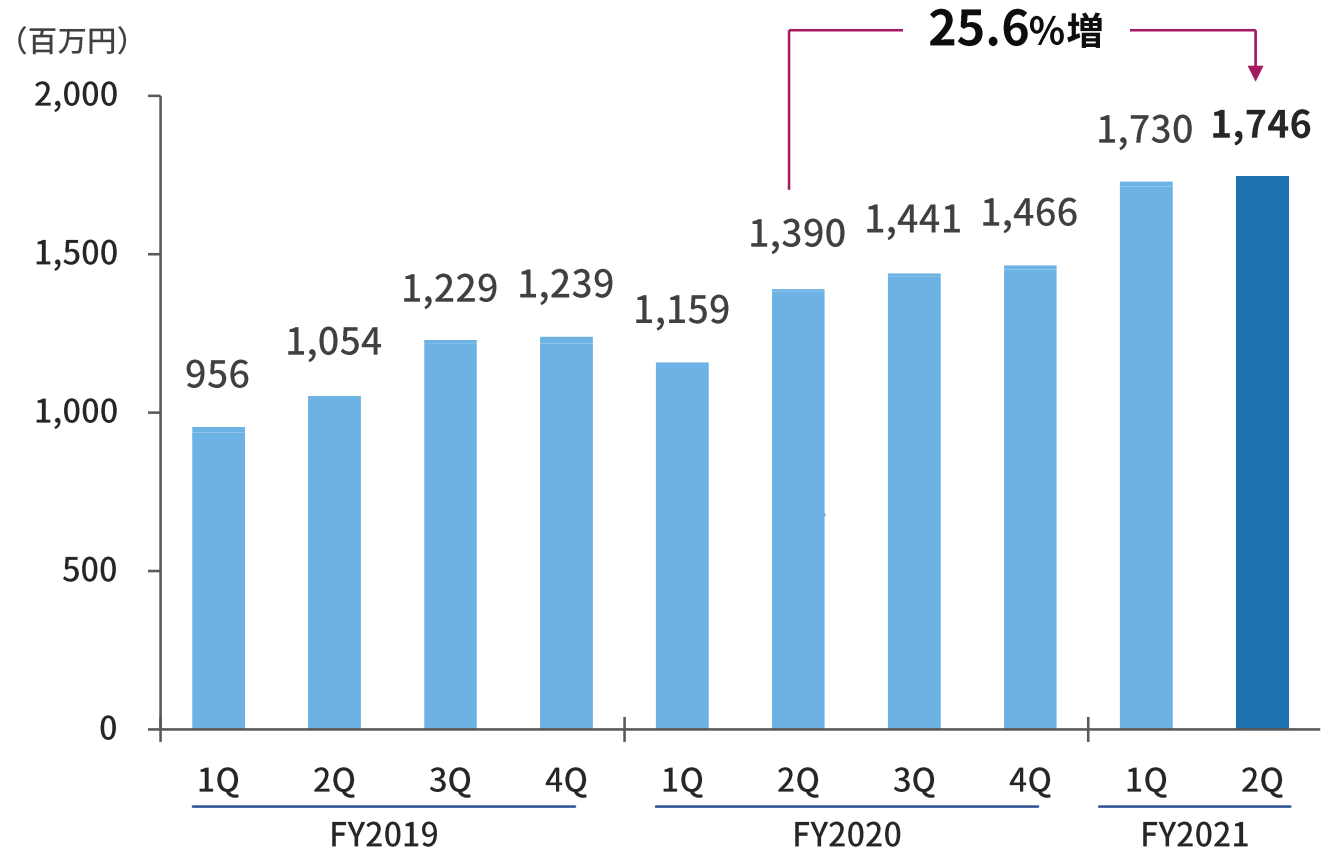
売上高推移

半導体の影響によりスマートフォン向けは減収も、IoT通信モジュールが伸長
音叉型水晶振動子は好調を継続、ATカット水晶製品は小型・高周波向けが好調に推移

売上高（累計）



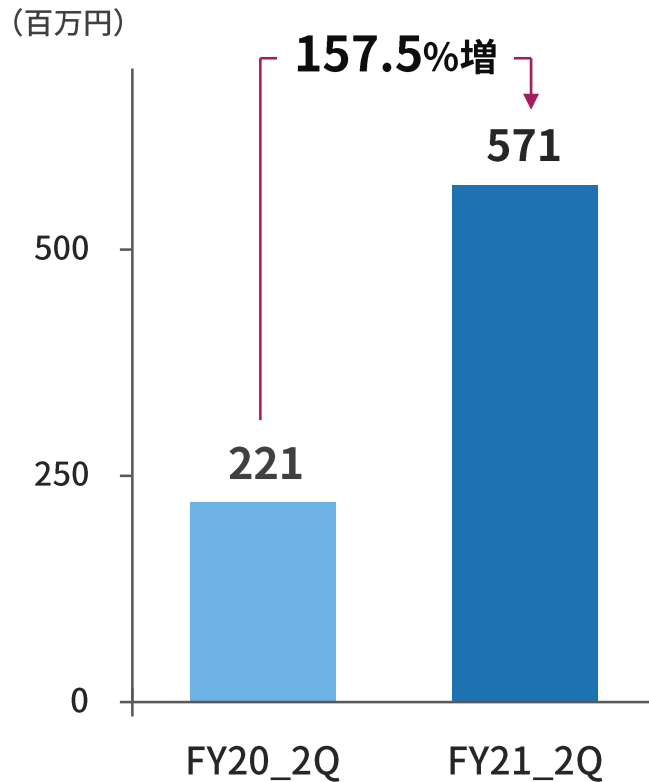
売上高（会計）



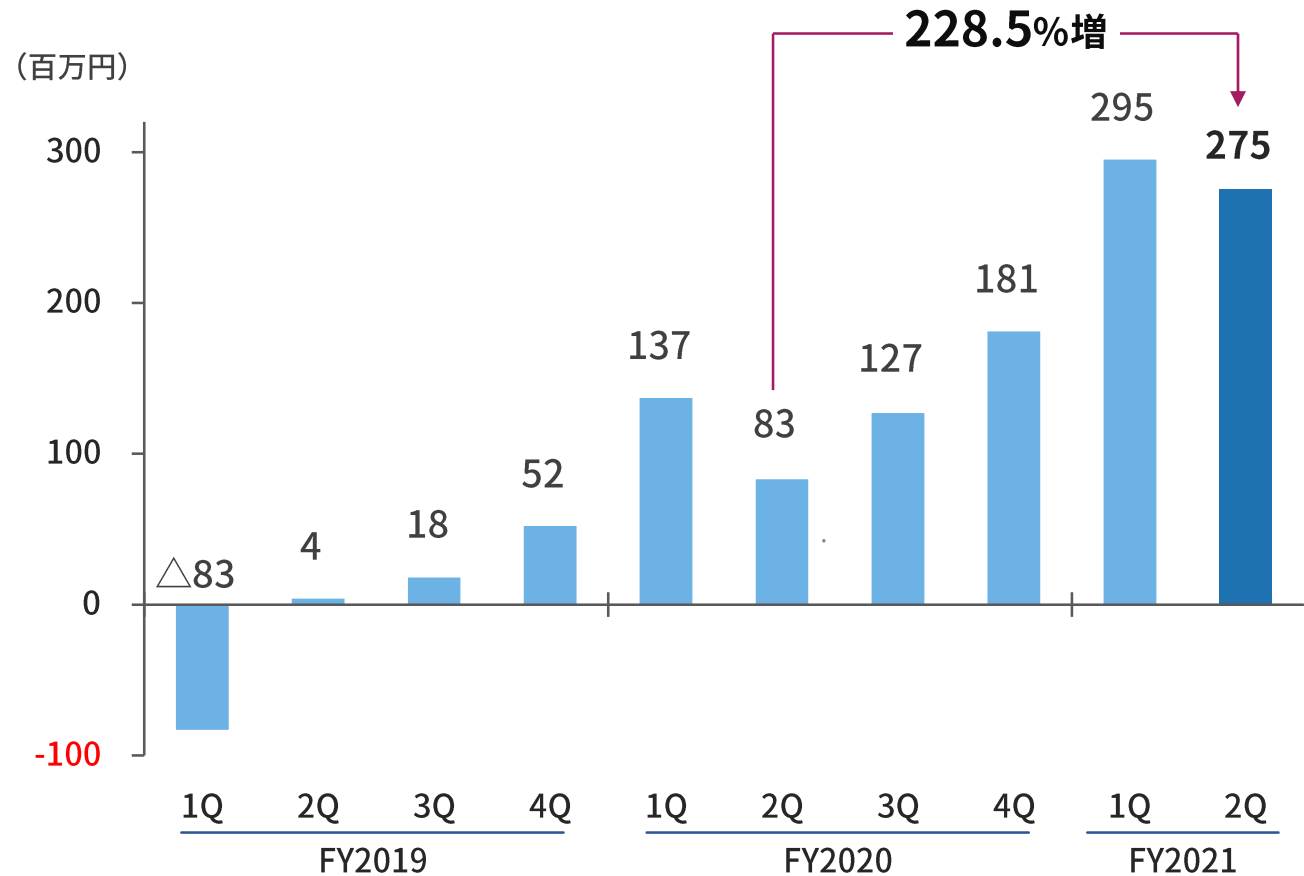
音叉型水晶振動子（kHz帯）は主に販売数量の増加等により増益

ATカット型水晶製品（MHz帯）は小型品の受注好調に加え、価格の見直し効果等により収益が大幅改善

経常利益（累計）



経常利益（会計）

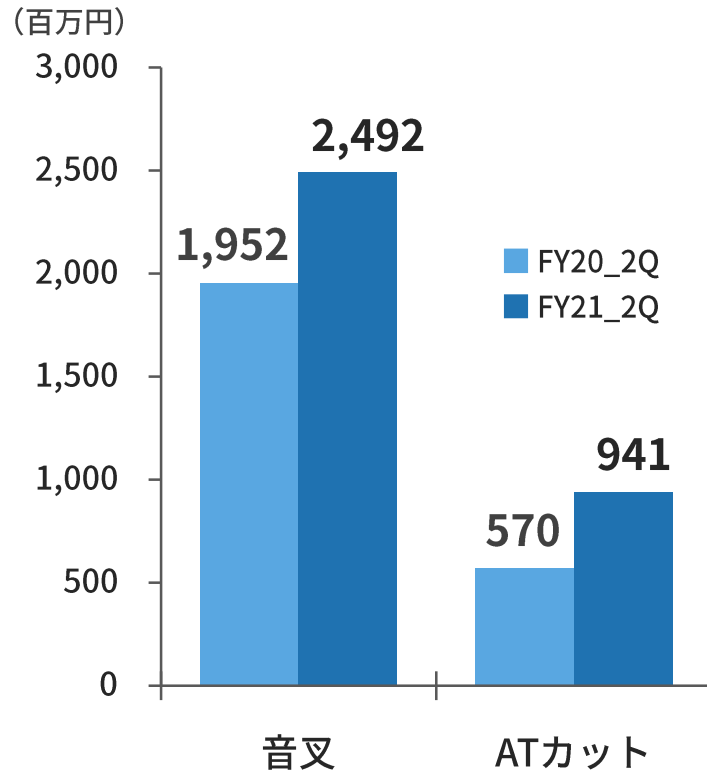


売上高・経常利益（水晶製品・タイプ別）

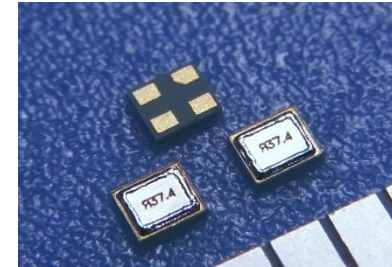
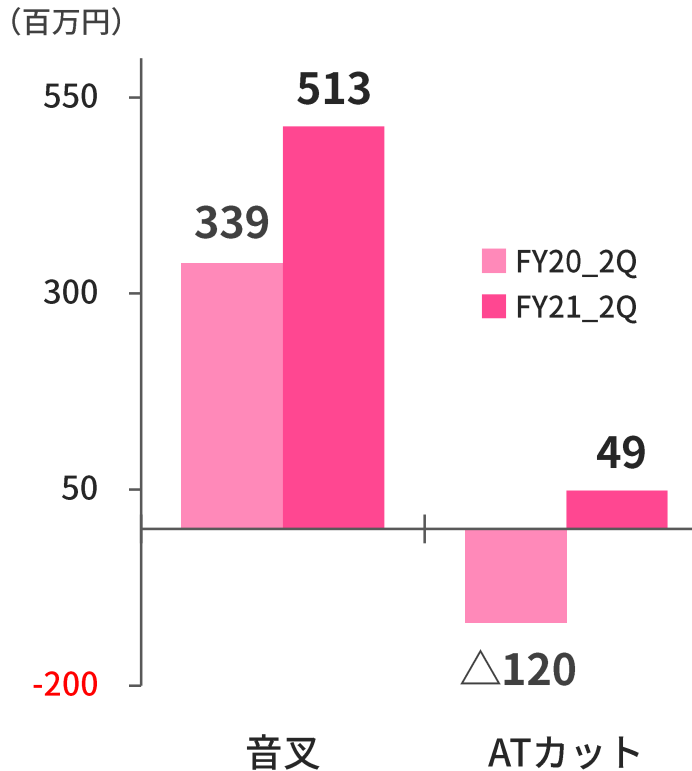
音叉型水晶振動子（kHz帯）は主に販売数量の増加等により増収増益

ATカット型水晶製品（MHz帯）は小型・高周波製品が好調、価格の見直し効果等により収益が大幅改善

売上高（累計）



経常利益（累計）



ATカット水晶振動子

FCX-08

長さ1.2mm、幅1.0mm、高さ0.3mm max.



音叉型水晶振動子

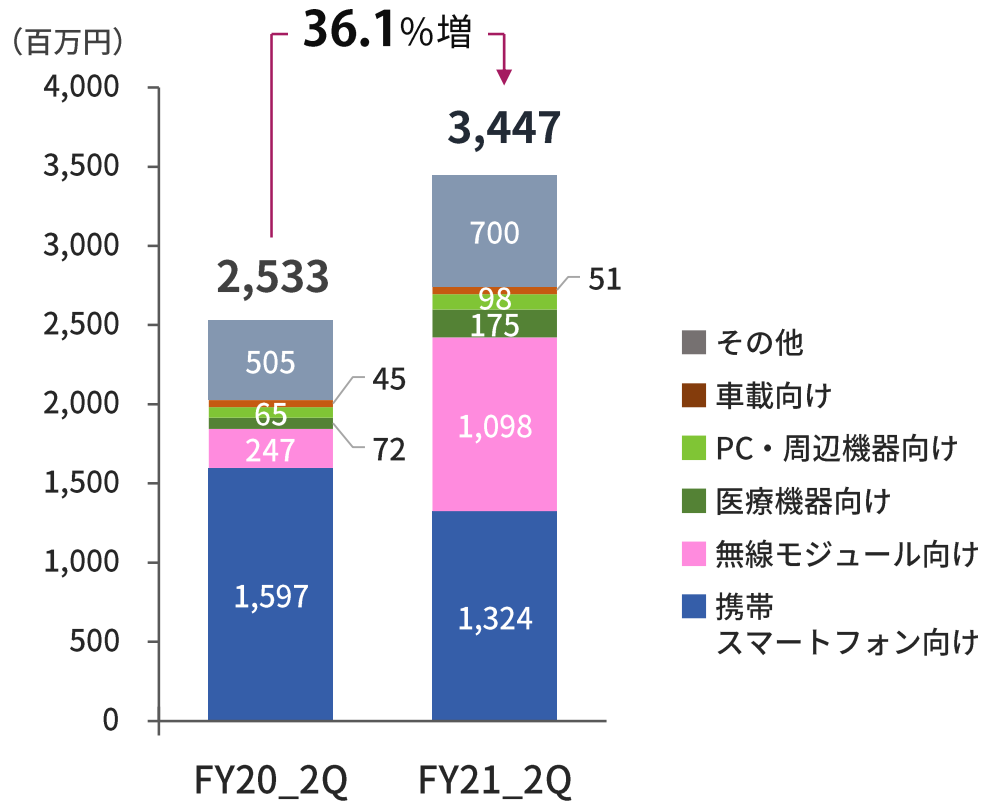
TFX-04

長さ1.6mm、幅1.0mm、高さ0.5mm max.

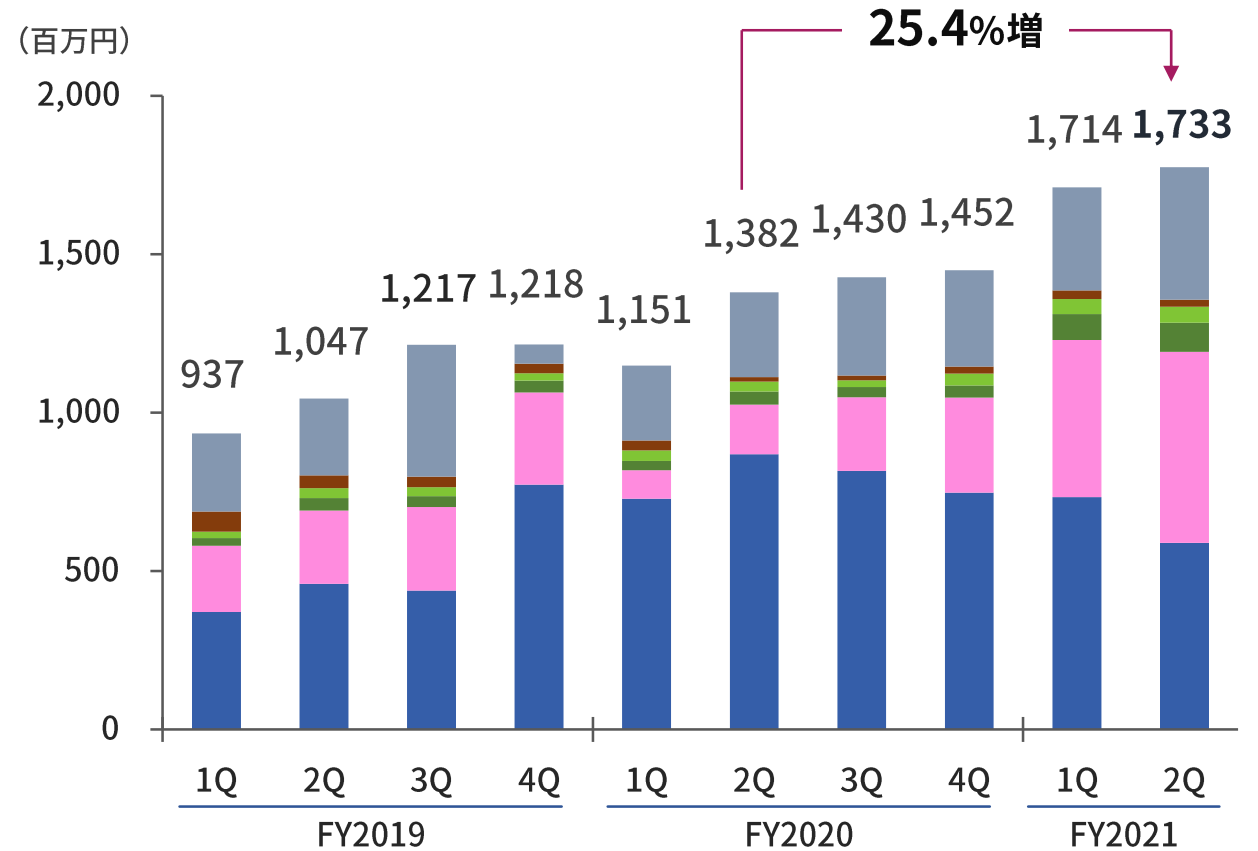
売上高推移（水晶製品・アプリケーション別）

LPWA等のIoT通信モジュール向けが伸長したほか、医療機器、VR機器等も好調に推移
 需給のひっ迫状況は続くも、半導体の影響によりスマートフォン向けは減収

売上高（累計）



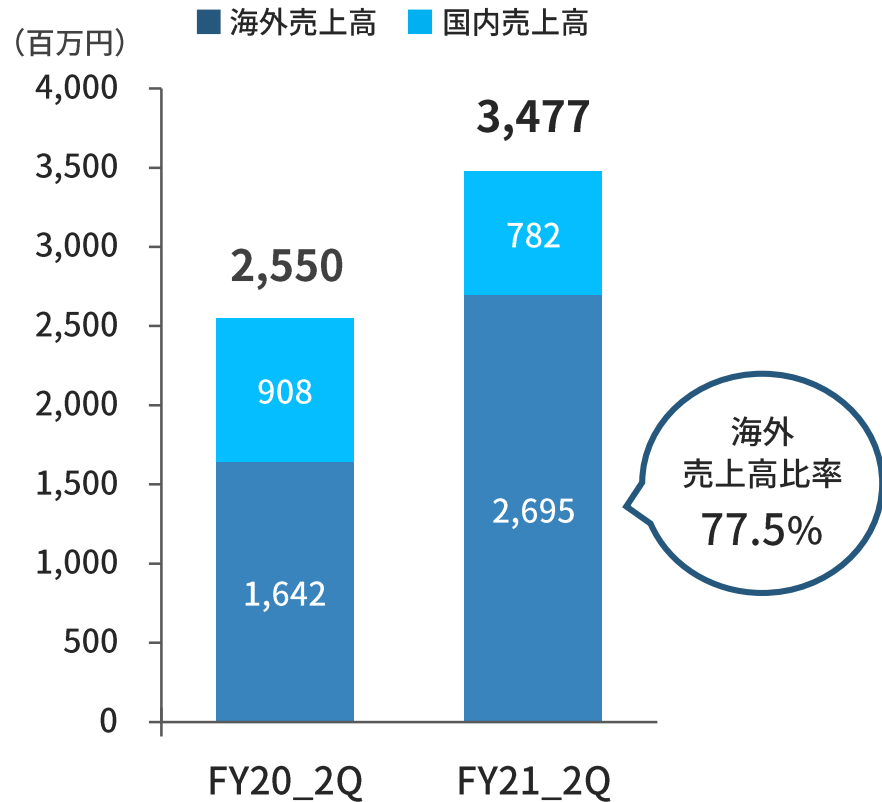
売上高（会計）



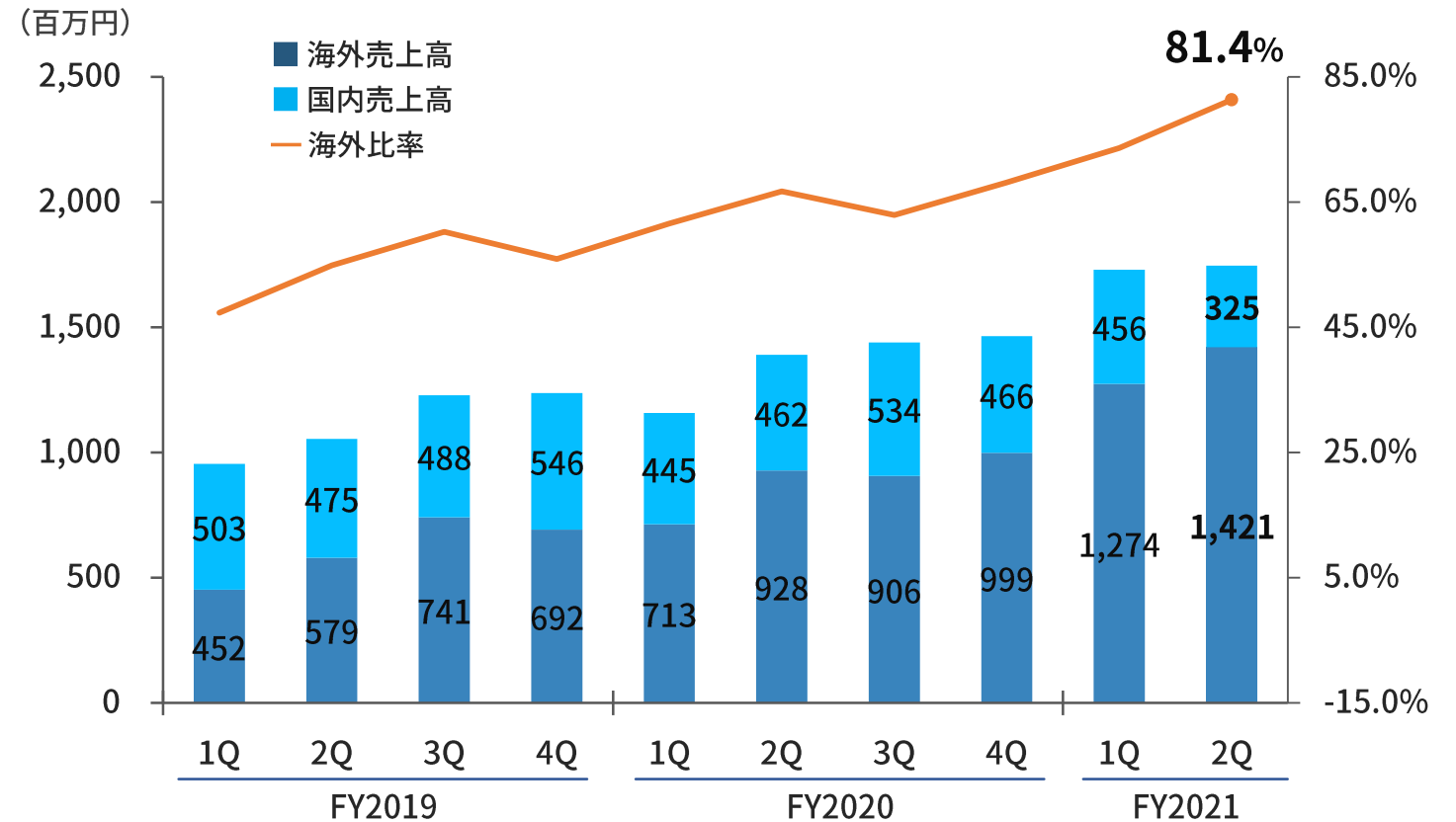
海外売上高推移

海外大手通信モジュールメーカー向けの受注が増加
補聴器等、小型医療機器向けも好調

売上高（累計）

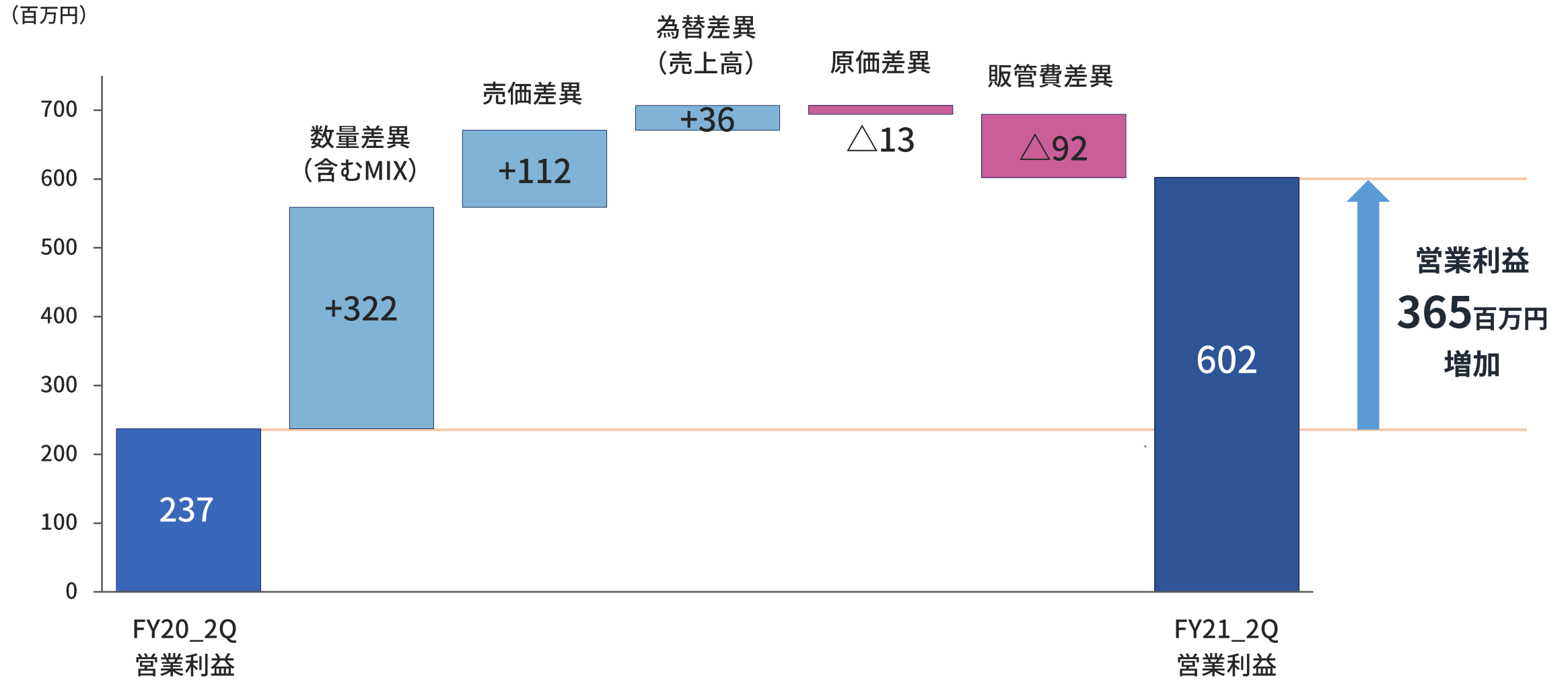


売上高（会計）



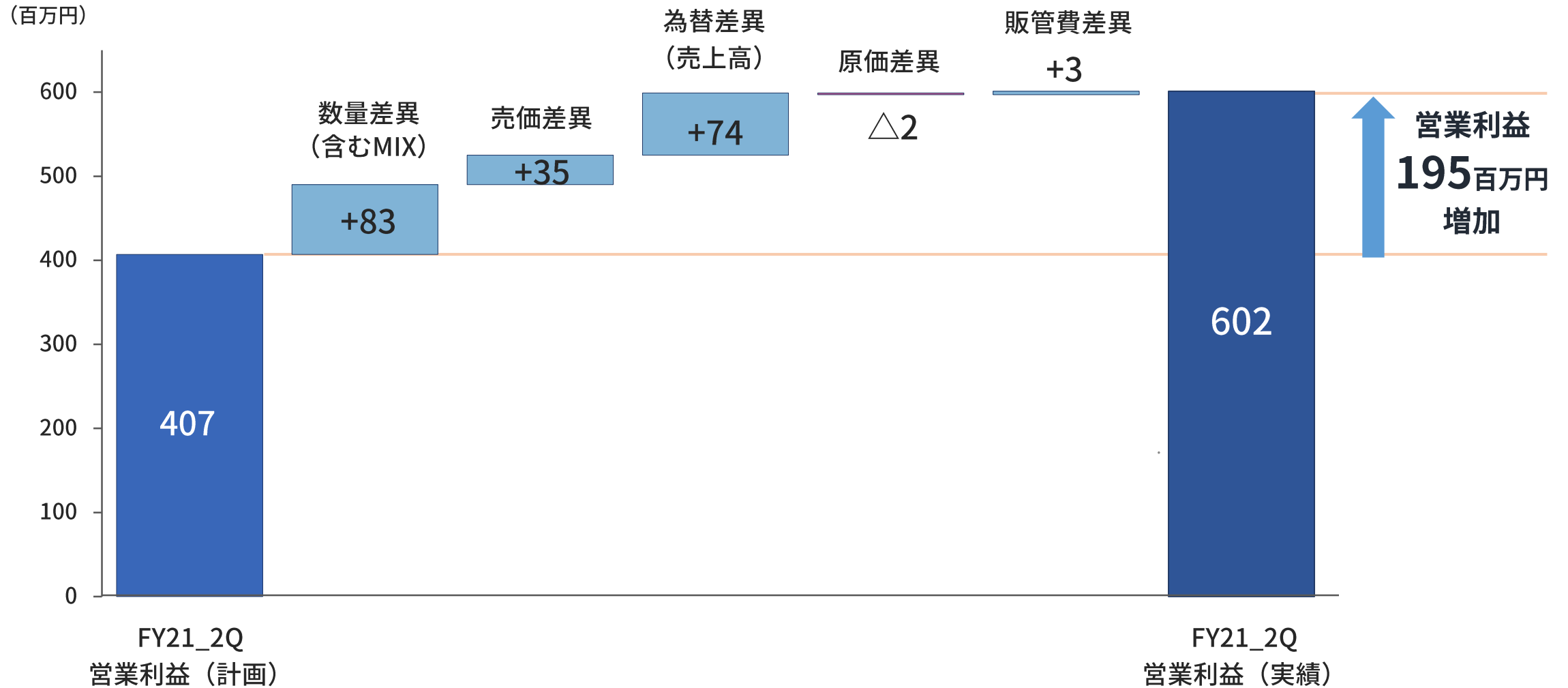
営業利益増減分析（対前年同期比）

無線通信モジュール向けの受注増と需給ひっ迫等による販売価格の上昇が増益に寄与
生産能力増強等により、減価償却費が増加したものの、コストコントロールの徹底等により費用増加を最小限に抑えた



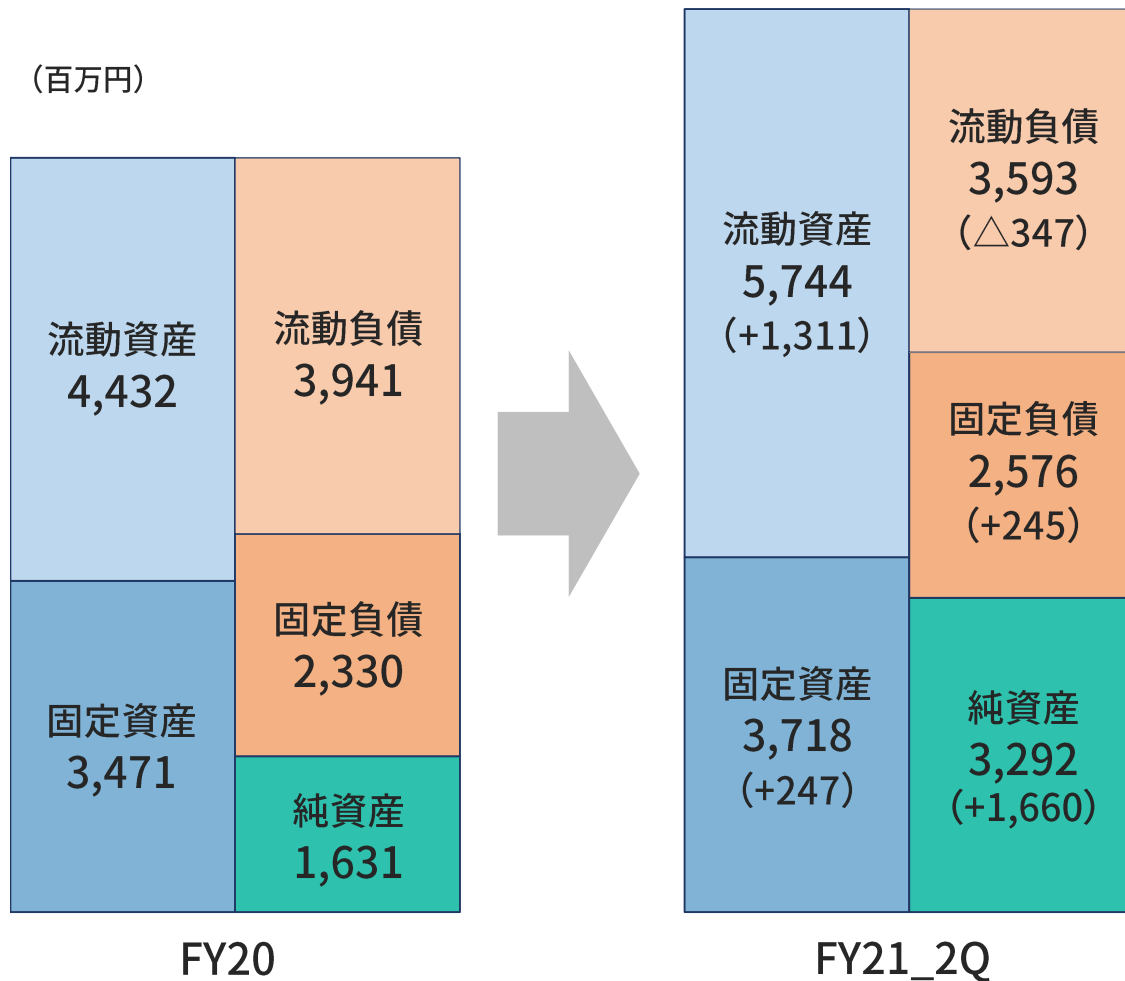
営業利益増減分析（対計画）

無線通信モジュール向けの受注増と医療機器等の好調により海外売上高が想定を上回ったことによる増益



総資産9,462百万円（前期末比+1,559百万円）

(百万円)



(主たる増減)

流動資産	+1,311
現金及び預金	+952
受取手形及び売掛金	+296
原材料及び貯蔵品	+160
固定資産	+247
機械装置及び運搬具	+361
建設仮勘定	△298
負債	△101
有利子負債	+295
賞与引当金	+69
設備関係支払手形	△258
純資産	+1,660
資本金及び資本剰余金	+1,123
利益剰余金	+471

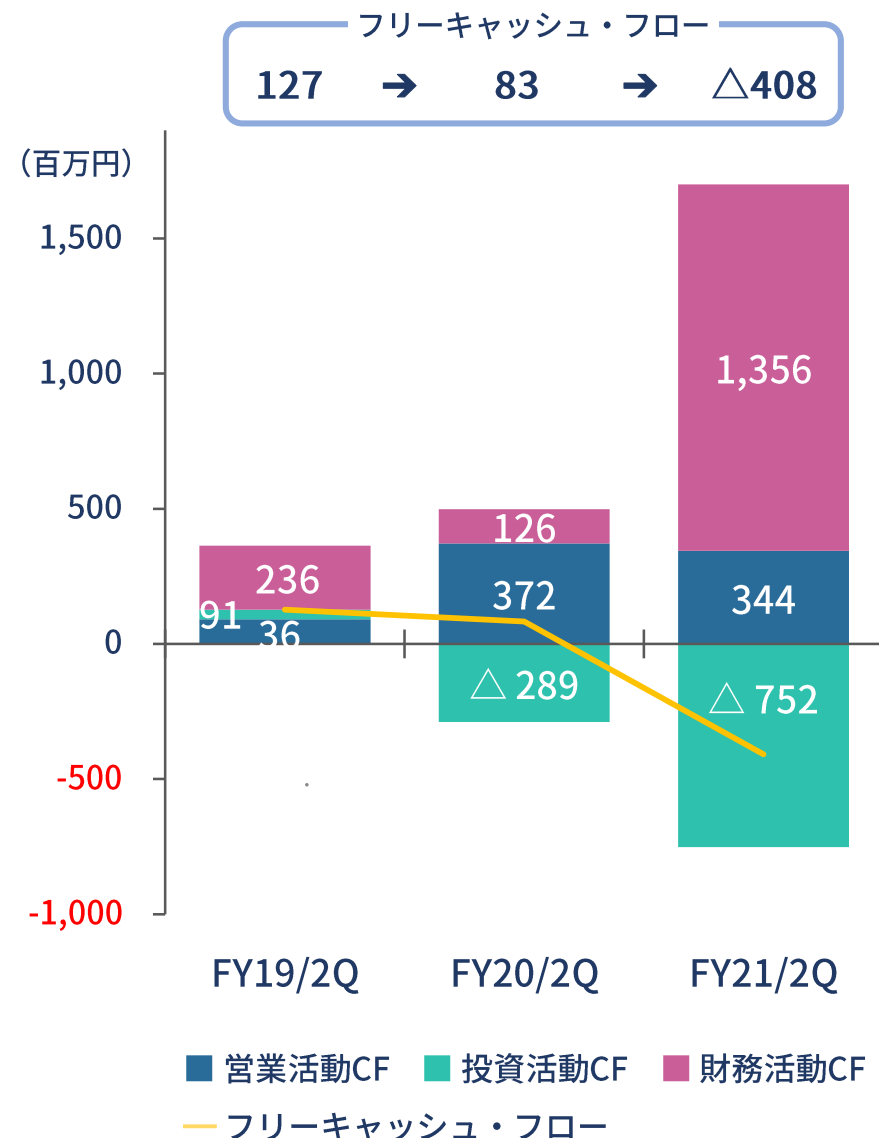
◎自己資本比率：34.8%（対前期比+14.2pt）

2022年3月期第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	FY20_2Q	FY21_2Q	増減額
税金等調整前四半期純利益	221	570	+348
減価償却費	194	259	+65
売上債権の増減	△4	△272	△268
その他の営業活動	△38	△212	△174
営業活動によるキャッシュ・フロー	372	344	△28
有形固定資産の取得及び売却	△269	△796	△526
その他の投資活動	△20	+43	+64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△289	△752	△462
フリーキャッシュ・フロー※1	83	△408	△491
有利子負債※2の純増減	+130	+295	+164
株式の発行による収入	—	+1,106	+1,106
その他の財務活動	△4	△45	△40
財務活動によるキャッシュ・フロー	126	1,356	+1,229
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	+42	+57
現金及び現金同等物の増減高	194	990	+795
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,279	2,126	+846

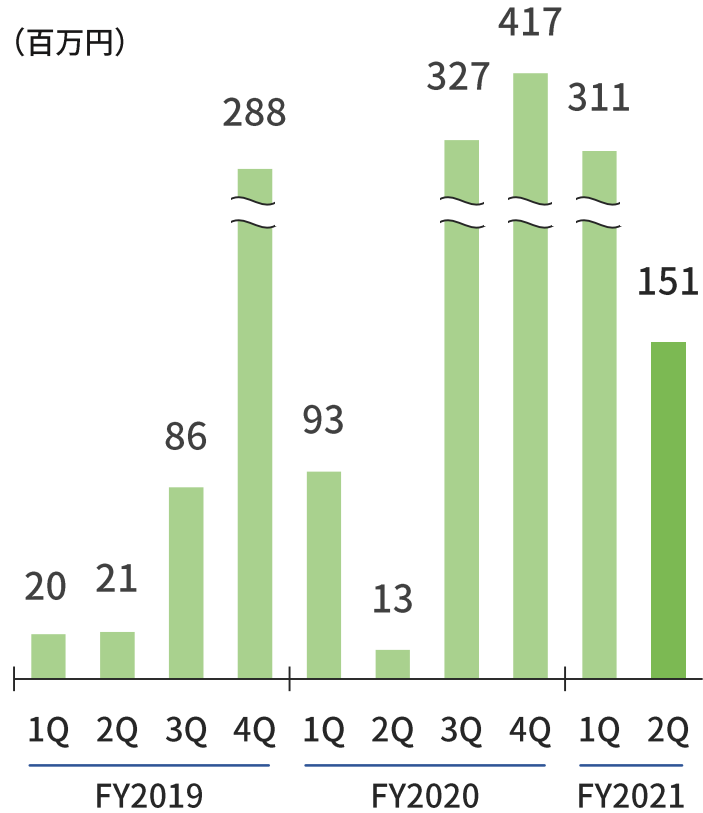
※1 営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

※2 借入金

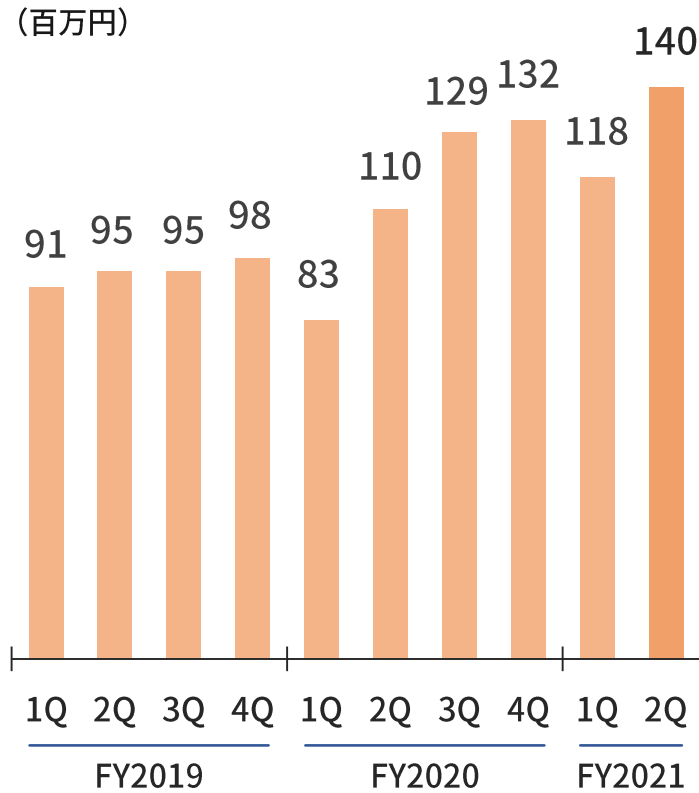


今後の需要動向を見据え、生産能力の増強を検討

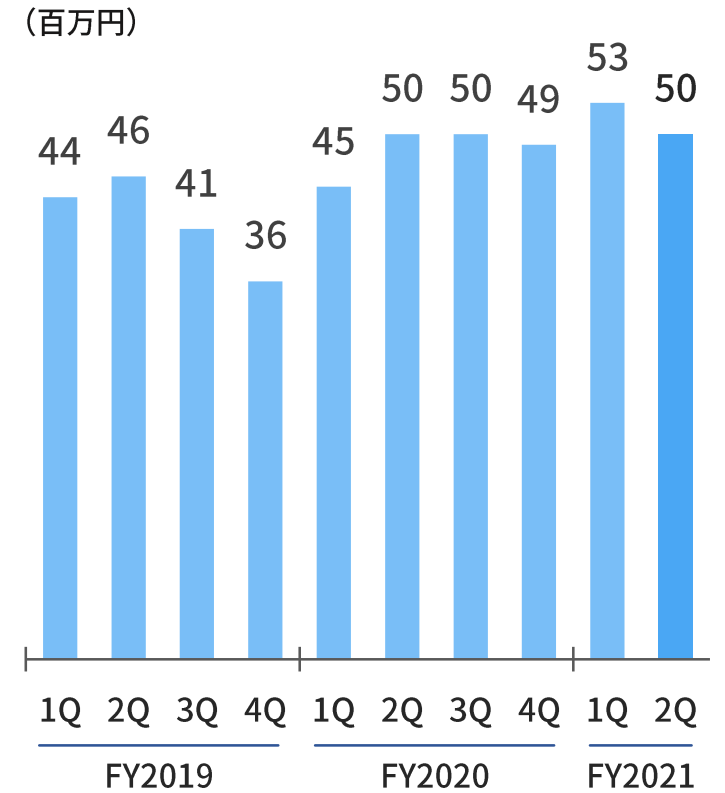
設備投資



減価償却費



研究開発費



① 2022年3月期2Q 決算概要

執行役員総務本部長 天野 伸幸

② 2022年3月期 業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

③ 今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

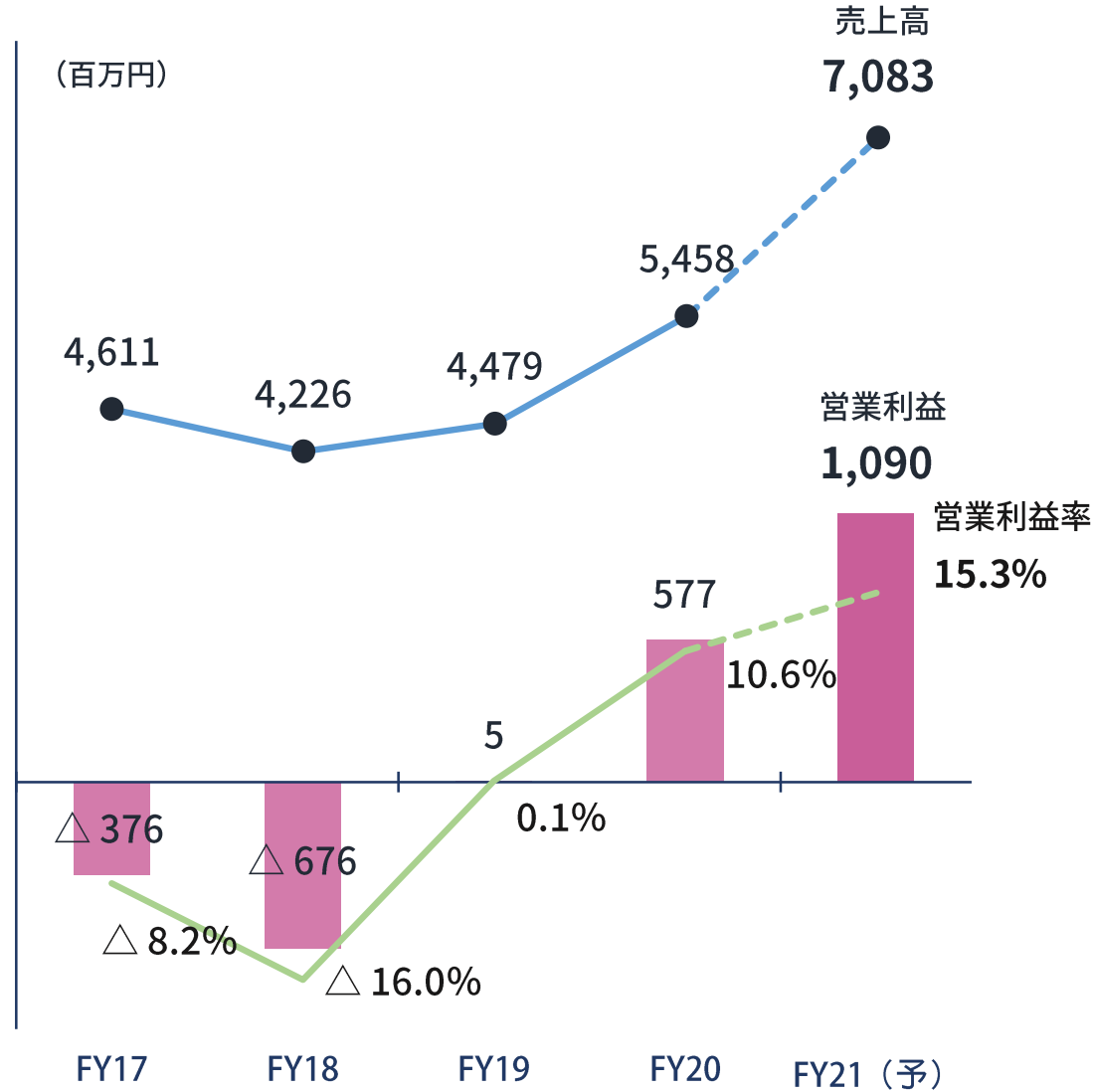
2022年3月期 通期連結予想

通期連結業績を上方修正（2021/10/18開示）

主力の音叉型水晶振動子が好調を持続、想定為替レートは1ドル＝106円

(単位：百万円)	2021年3月期 実績	期初業績予想 (2021/05/13)	2022年3月期 通期予想 (2021/10/18修正)	対前年同期 増減率
売上高	5,458	6,722	7,083	29.8%
営業利益	577	846	1,090	88.9%
営業利益率	10.5%	12.5%	15.3%	4.8pt
経常利益	531	778	1,035	94.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	558	690	833	49.1%
1株当たり当期純利益	75.63円	89.46円	98.17円	22.54円

連結業績の推移



2022年3月期通期予想

売上高 70.8億円
営業利益 10.9億円

売上高

スマートフォン向け： 現在のトレンドは維持
 無線モジュール向け： IoT通信モジュール需要加速

営業利益

設備投資に伴う減価償却費等費用が発生するも、増収効果やコスト低減により増益を見込む

新型コロナウイルス感染症・半導体不足

上期において物流面や一部のアプリケーションにおいて影響を受けたものの、通期業績への影響は軽微と予測

株主還元に関する基本方針

長期安定的な企業価値向上によって、株主への安定的な配当を継続的に行う



連結業績及び配当性向等を総合的に勘案した利益還元
配当性向は
連結当期純利益の20%を目安

経営の重要課題

成長力強化を目的とする
研究開発・生産設備投資
や健全な財務体制を維持
するため内部留保の充実

適切な資源配分と株主還元で持続的な成長を目指す

配当の状況

	中間	期末	合計	配当性向（連結）
2020年3月期	0.00 円	0.00 円	0.00 円	—
2021年3月期	0.00 円	5.00 円	5.00 円	6.6%
2022年3月期	5.00 円	5.00 円（予定）	10.00 円（予定）	10.2%

① 2022年3月期2Q 決算概要

執行役員総務本部長 天野 伸幸

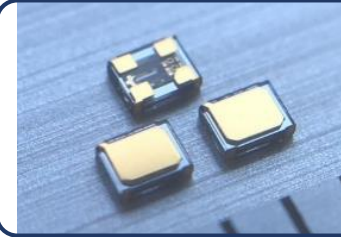
② 2022年3月期 業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

③ 今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

重点施策



成長ドライバー製品の販売拡大
小型音叉型水晶振動子の更なる販売拡大



既存製品の収益力強化
アジア圏を軸に
成長市場に向けた販売拡大



事業構造変革による収益力の強化
生産体制の最適化・コストコントロールの徹底・生産性向上による収益力の強化



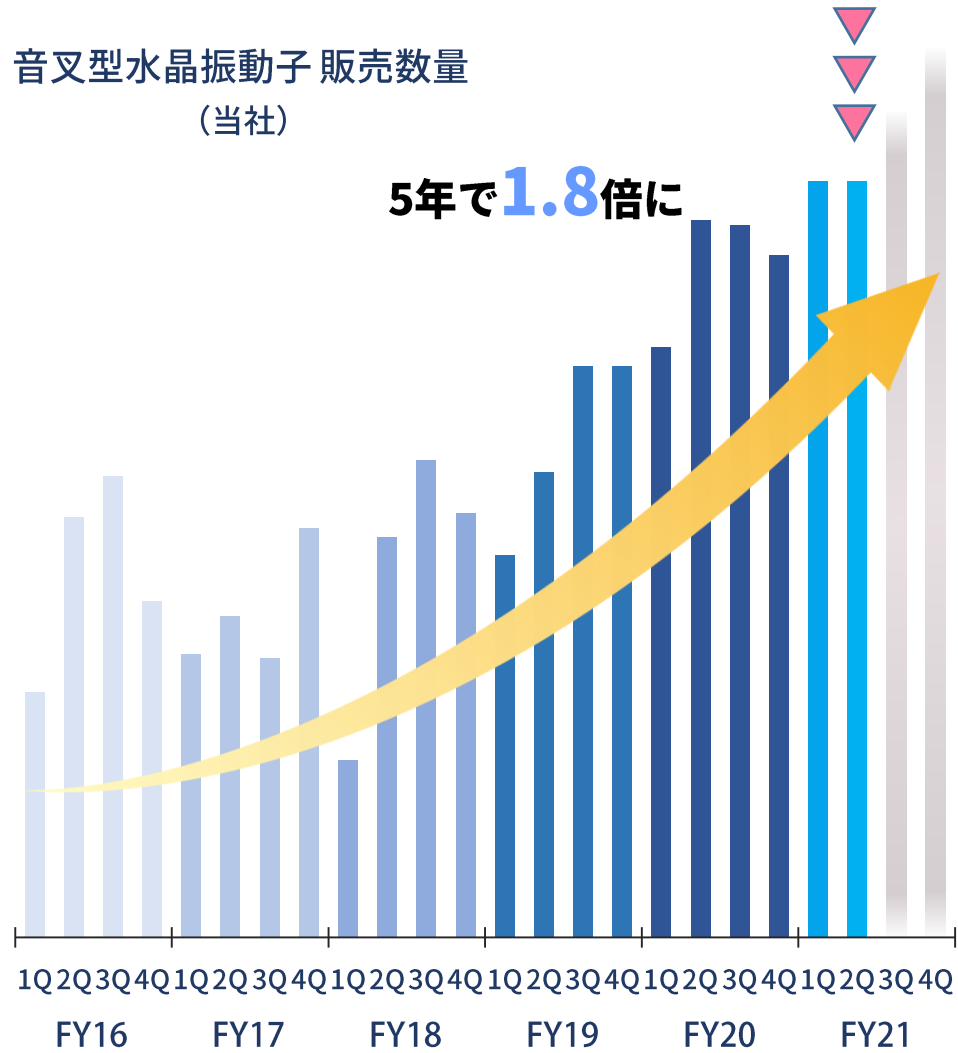
新たな成長ドライバーの創出
「KoTカット」水晶デバイスのタイムリーな市場投入

上期振り返り

- 音叉型水晶振動子は販売数量は前年同期比15%アップ。更なる能力アップを検討中
 - MHz帯水晶振動子は5Gチップセットの採用効果や医療機器、AR機器等の成長市場に販売拡大
 - スマートフォン向けは半導体不足の影響もあり前年同期を下回ったものの、需給のひっ迫状態は現在も続いている
 - IoT関連の通信モジュールの伸長や車載関連向けが回復傾向にあり、無線モジュール向け受注が大幅増加
-
- 新ライン増設等により、減価償却費が増加したものの、コストコントロールの徹底等により費用増加を最小限に抑えた
-
- サンプル出荷を継続中であり、出荷先は拡大
 - KoTカットを用いた新製品を開発中
 - 台湾にて特許が登録完了

第2四半期として過去最高の販売を記録

音叉型水晶振動子 販売数量
(当社)



第2四半期以降も販売拡大を見込む

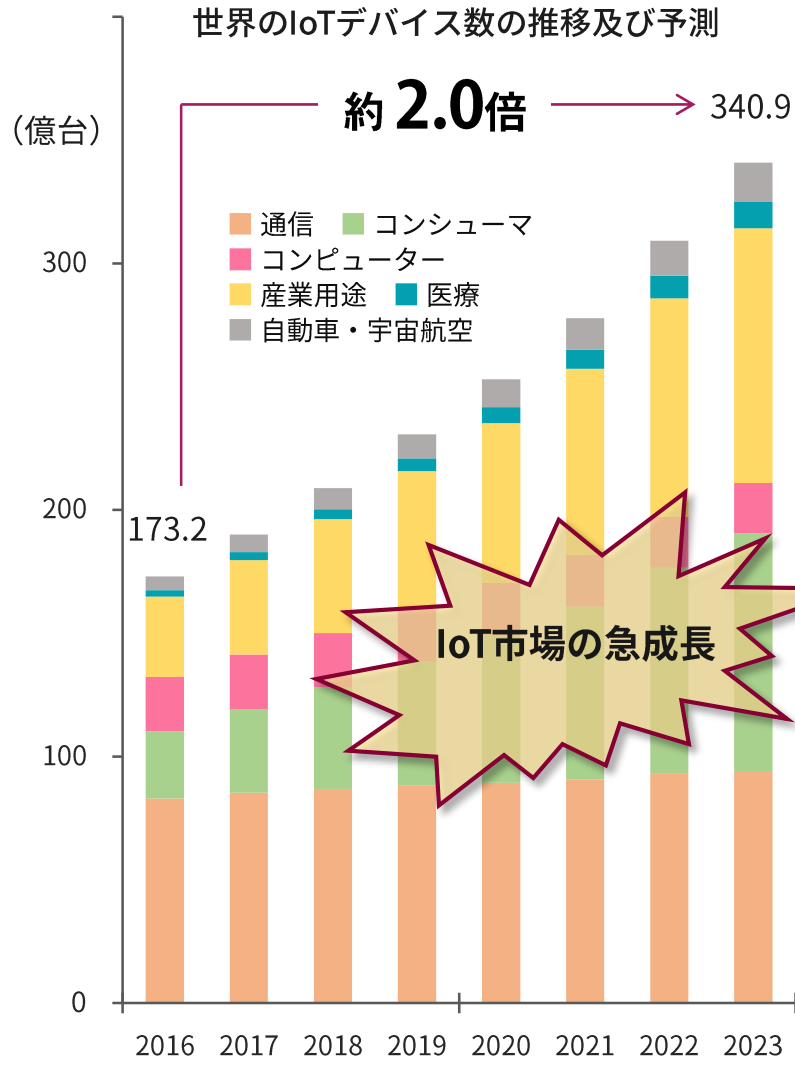
👉 好調なIoT通信モジュール向けに加え、スマホ向けが回復



IoT関連の通信モジュール

スマートフォン関連

音叉型水晶振動子 市場規模



出所：総務省「令和3年 情報通信白書」

市場の要求

充電式のウェアラブル端末やスマートメーターなど、バッテリー駆動のIoT機器は、長時間駆動への要求がますます強くなっている

この要求に応えるためには、動作時間の大半を占めるスタンバイ (スリープ) 時に消費電流を抑えることで消費電力を減らすことが重要になる

低消費電力



多くのIoTデバイスで32kHzの音叉型水晶振動子が使用される

● ● ●

↓

更なる省電力化へ

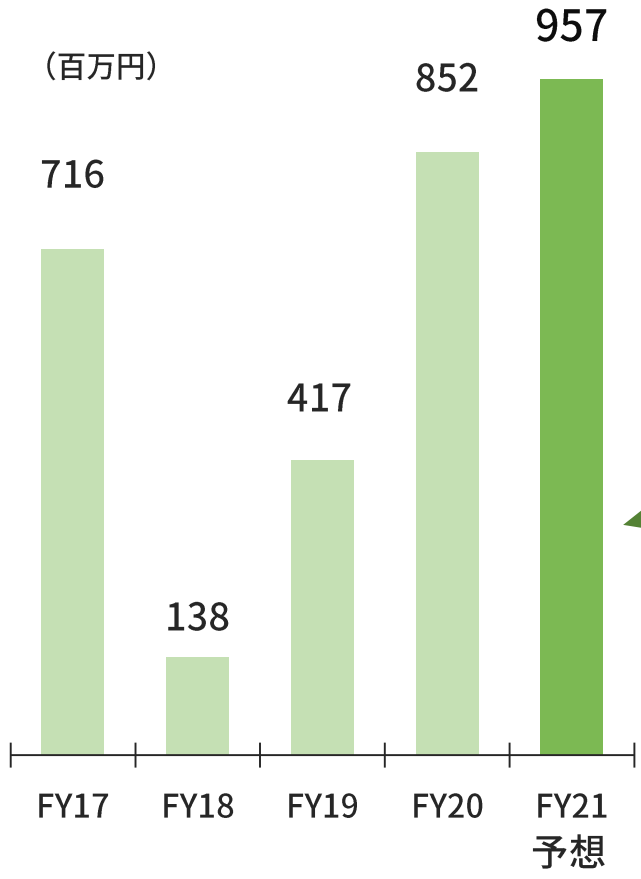


従来品よりも低い負荷容量 (3pF・4pF) 及び低R1に対応

世界的な潮流である省電力化へ貢献

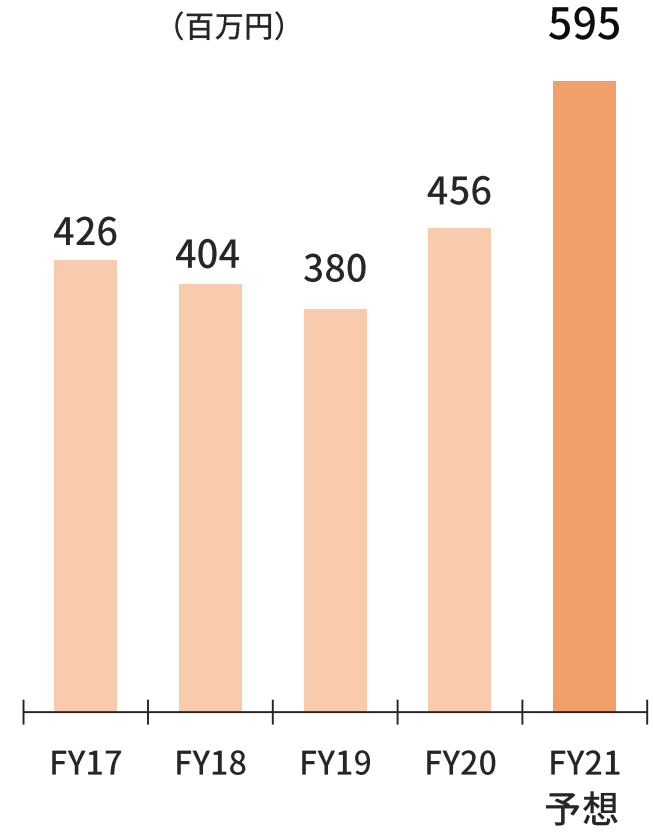
今後の需要動向を見据え、生産能力の増強を検討

設備投資

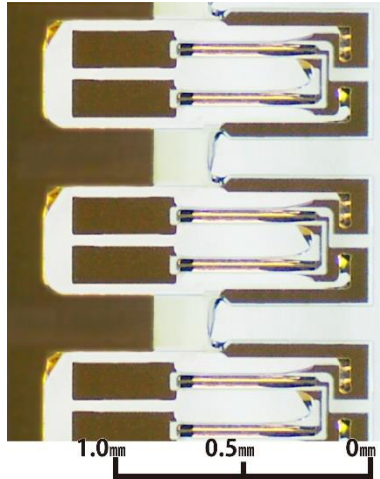


+新ライン
増設検討

減価償却費



超微細加工を可能とする水晶フォトリソ技術の確立により小型化や高信頼性を実現



ミクロン単位のフォトリソ技術で製造された音叉型水晶振動子のブランク

2000年代初期

音叉製品は後発
スタート

2010年代

超小型・高品質で
信頼性評価

2020年～2021年

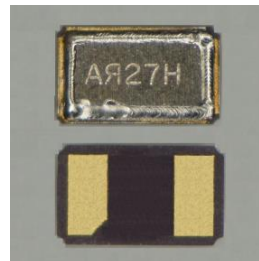
世界のスマホ・IoT機
器で高シェアを獲得

世界標準となる
音叉を目指す

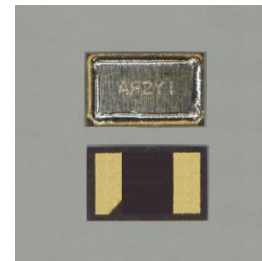
TFX-02S
3215サイズ



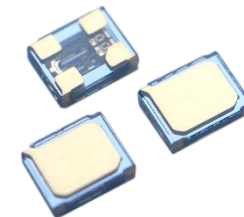
TFX-03
2012サイズ



TFX-04
1610サイズ



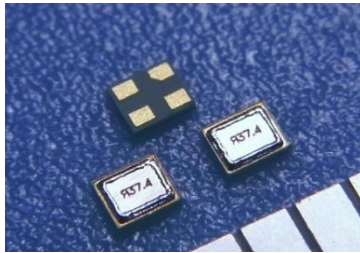
TFX-05X
1210サイズ



リファレンスデザインの推奨

👉 Q社製チップセット

76.8MHz / 48.0MHzにおいてICベンダー認定を取得済み



ATカット水晶振動子

FCX-08

長さ1.2mm、幅1.0mm、高さ0.3mm max.

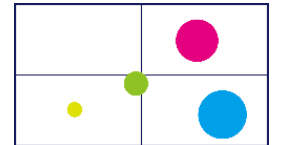
👉 リファレンス活動の継続・強化

👉 規模を追わない利益重視の活動の継続

製品の選択と集中

👉 製品ポートフォリオの最適化

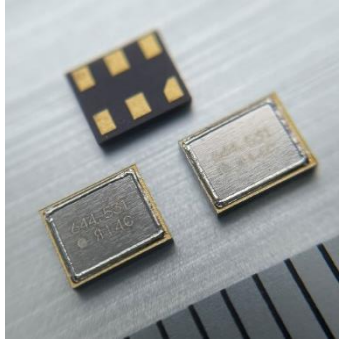
- ・市場動向等からライフサイクルを見極め、経営資源を効率的に配分する



👉 フォトリソブランクの品質向上

製品の選択と集中を図り、利益率の向上を目指す

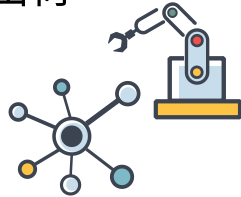
水晶発振器「FCXO-04」



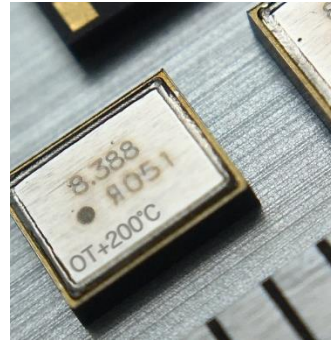
LVDS、LVPECL出力が可能
低位相ジッタ水晶発振器

2021年12月の進捗について

- 通信用ICや測量機器メーカーに出荷
- 小規模生産体制を確立
- 海外ECサイトにて販売開始



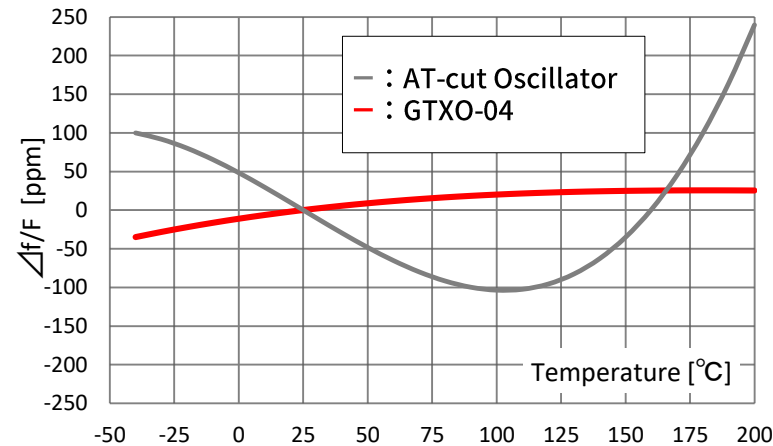
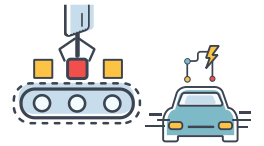
水晶発振器「GTXO-04」



業界初となる200°Cの高温対応
で周波数精度を実現したプログラ
マブル水晶発振器

2021年12月の進捗について

- 180°Cの高温下で使用する検査用途として出荷
- 小規模生産体制を確立
- 海外ECサイトにて販売開始



GTカットの良好な温度特性

極めて良好な温度特性を持つ
GTカット水晶を応用し、-40~
+200°Cの温度範囲で±50 ppm
の優れた周波数温度特性を実現。

ATでは対応困難な特殊用途に

KoTカットOPAW水晶振動子「KCR-04」

2021年12月の進捗について

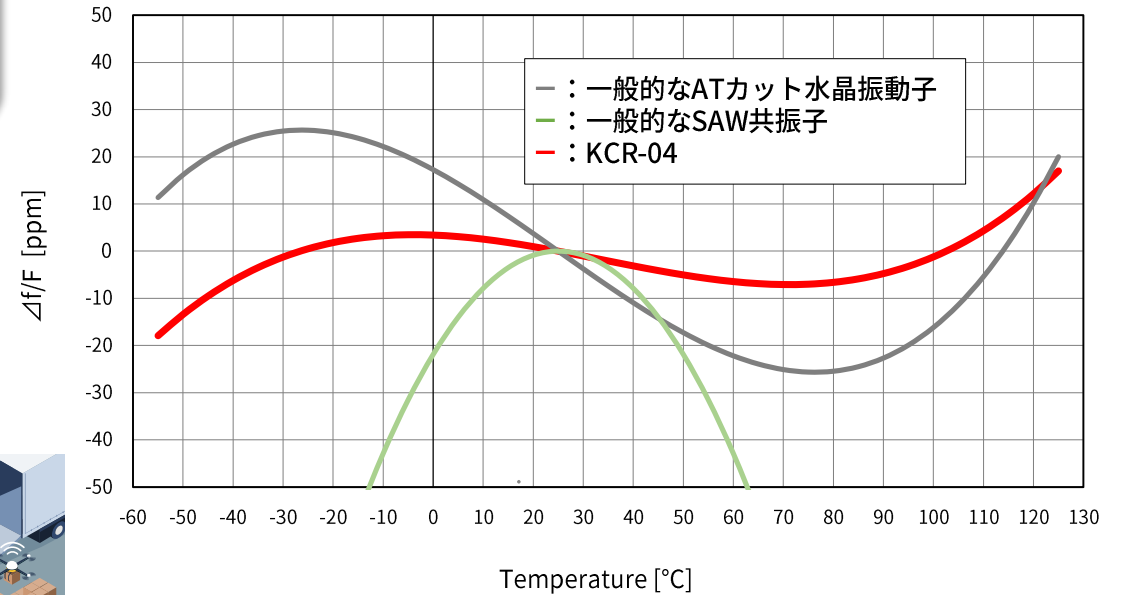
- ・国内、海外の大手企業に640MHz、491.52MHz品を出荷中
- ・問い合わせ多く、周波数範囲を拡大して対応していく
- ・小規模生産体制を確立
- ・来期以降、収益貢献の本格化を目指す

高周波・高精度・低位相雑音化に対応



ATカット水晶振動子比2倍の温度領域での周波数精度

基本波で500MHz～1GHz 実現



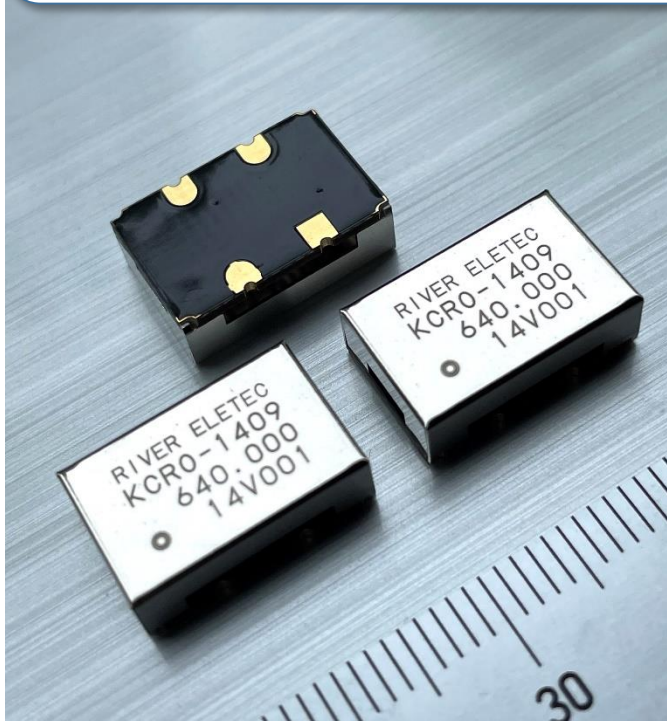
KoTカットとは？

2020年、水晶原石をある角度でカットすることでATカット振動子を遥かに凌ぐ良好な周波数温度特性の板波が存在することを当社が発見・実証。(特許出願) KCR-04、KCRO-1409に採用。新製品を開発中。

KoTカットOPAW水晶発振器「KCRO-1409」

2021年12月の進捗について

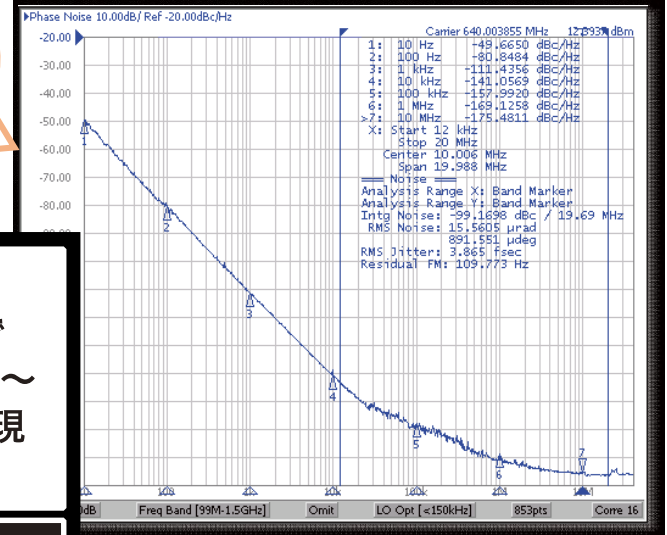
- 国内、海外の企業中心に500MHz、640MHz、1GHz品を出荷
- 国内最大手の通信系企業から引き合い
- 周波数範囲を拡大
- 小規模生産体制を確立
- 来期以降、収益貢献の本格化を目指す



5G、6G(Beyond5G)へ
大容量通信社会のニーズに対応

超低位相ジッタ
5フェムト秒
(RMS) 実現

位相雑音特性およびジッタ (SPXO:Vcc=5.0V)



ATカット水晶
振動子比2倍の
温度領域での
周波数精度

基本波で
500MHz~
1GHz 実現

2種類の発振器
SPXO
VCXO

低位相ノイズ
-140dBc/Hz
@10kHz
offset

400Gbps、800Gbps超高速光通信
ネットワーク・超ビッグデータ市場

特許の状況について (特願 2020-138146)

KoTカットOPAW晶発振器の特性を引き出す独自の特許技術を主要国で出願



RIVER

Connecting to the Future

リバーエレクトック株式会社

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。